

第65回 日本伝統工芸展 金沢展



日本工芸会総裁賞《四分一象嵌打出銀器》
前田宏智（東京）—日本伝統工芸展金沢展—

特別陳列 加賀藩の美術工芸Ⅱ【前田育徳会尊經閣文庫分館】

- 石川の文化財【古美術】
- 秋の優品選【近現代絵画・彫刻】
- 画家とやきもの【工芸】

- 11月の企画展示室
- 11月の行事案内・ミュージアムウィーク
- アラカルト ただいま展示中

1 F企画展示室

第65回 日本伝統工芸展 金沢展

主催／石川県教育委員会、日本放送協会金沢放送局、朝日新聞社、北國新聞社、公益社団法人 日本工芸会
後援／富山県教育委員会、福井県教育委員会

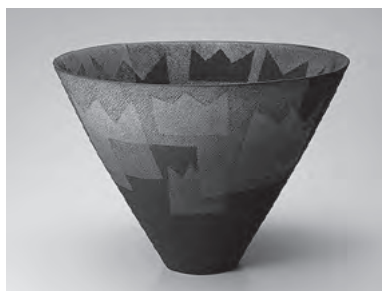
10月26日(金)～11月4日(日) 会期中無休 ※最終日(4日)は午後5時まで (入場は午後4時30分まで)



高松宮記念賞《乾漆螺鈿天牛箱》
しんたにひとみ(奈良)



朝日新文部科学大臣賞《緑影の迹》
小倉淳史(京都)



日本工芸会会長賞《線描幾何文花入》
森田由利子(奈良)

我が国は、四季の気候条件に恵まれ、多様な自然環境を形成しています。その中で、各地の風上に根ざした工芸品が生み出され、伝統技術を大切に継承し発展させてきました。本展は、この優れた伝統技術の保護と後継者の育成、ならびに伝統工芸に対する普及を目的として、毎年開催されるものです。六十五回目となる本年は、陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・諸工芸(七宝・ガラス・截金など)の七部門の入選作品六二二点の中から、重要無形文化財保持者・受賞者等の作品と、北陸およびその他の地の入選作品を含め、三四五点を展示します。

今回の石川県の入選者は七十六人で、五年ぶりに東京を抜いて、県別の入選者数が全国一となりました。日本工芸会総裁賞の金工作品《四分一象嵌打出銀器》を制作した前田宏智氏は石川県の出身で、平成六年に高松宮記念賞を受賞して以来、二度目の受賞ですが、近年、伝統工芸日本金工展で受賞を重ねており、まさに満を持しての再受賞となります。

残念ながら県内在住の入賞者はありませんでしたが、初入選が四人含まれていること、陶芸・漆芸・木工芸はそれぞれの部門別に見ても、石川県の入選者数が全国一であることから、作家の裾野が広がりつつあり、今後に期待が持てる結果と言えるでしょう。

時を超えた名品が生まれる、伝統工芸最高水準の公募展を、本年度もどうぞお楽しみください。

◆展示作品解説

日時	11時～	13時30分～
10月27日(土)	《陶芸》田島 正仁	《漆芸》大角 裕二
28日(日)	《金工》般若 保	記念講演会
29日(月)	《陶芸》中田 一於	《染織》山下 郁子
30日(火)	《木竹工》細川 毅	《金工》村上 浩堂
31日(水)	《染織》毎田 健治	《人形》紺谷 力
11月1日(木)	《漆芸》中野 孝一	《木竹工》川北 浩彦
2日(金)	《陶芸》武腰 潤	《染織》二塚 長生
3日(土)	《木竹工》川北 良造	《金工》中川 衛
4日(日)	《漆芸》小森 邦衛	《総合》山崎 剛 (金沢美術工芸大学学長)

◆講演会

演題 「香川の漆芸」
講師 山下義人氏
(重要無形文化財「蒔繪」保持者)

日時 十月二十八日(日)
午後一時三十分～

会場 美術館ホール《聴講無料》



◆観覧料

	個人	団体(二十名以上)
一般	七〇〇円	六〇〇円
大学生	四〇〇円	三〇〇円
高校生以下	無料	無料

※当館友の会員は、受付での会員証提示により団体料金になります。

石川の文化財

10月18日(木)～11月19日(月) 会期中無休

石川県には、歴史的あるいは芸術的に優れた文化財が数多く伝えられています。これは、江戸時代に加賀藩主としてこの地を支配した、前田家の文化的施策が大きな要因の一つであると言われていています。そしてこうした歴史的背景を基盤とするところの石川の文化風土は、芸術・文化全般に対する高い関心というかたちで今日に引き継がれています。

能登地区は日本海の海上交通により、大陸との接触が早くから行われたため、歴史的な風土や文化を色濃く物語るものを中心とした文化財が残されています。一方、加賀地区では、古代・中世において白山信仰の中心であったことや、中央の社寺の荘園として開かれたことにより、それを反映する文化財が残っています。また、前田家が加賀藩主となって文

化の展開をみせて以降は、前田家を中心とする収集・育成された文化財が伝えられています。

当館ではこうした文化財、とりわけ美術工芸品を中心に収集活動を行っており、ほかに保存と活用を目的として、県内の社寺や個人の方々から、指定文化財を含む多くの作品の寄託を受けています。

今回の展示では「石川の文化財」と題して、国宝・重要文化財・石川県指定文化財などを紹介します。見どころは当館が所蔵する《色絵雄香炉》と白山比咩神社所蔵の《剣 銘吉光》で、いずれも国宝です。現在石川には二件の国宝が存在するのみで、それを同時に見るのできるまたとない展覧です。ぜひこの機会にご覧ください。



県文《白山曼茶羅図》能美市蔵

前田育徳会尊經閣文庫分館
特別陳列
加賀藩の美術工芸Ⅱ

10月18日(木)～11月19日(月) 会期中無休

「加賀藩の美術工芸Ⅱ」期では、Ⅰ期からすべての展示作品が替わります。今回は国宝《入道右大臣集》からご紹介いたします。これは平安時代後期の右大臣・藤原頼宗(九九三～一〇六五)の詠歌百九首を収めた自撰集で、『頼宗集』とも呼ばれます。頼宗は有名な藤原道長の次男で、右大臣にのぼり一〇六五年に出家したことから「入道右大臣」と称されるようになりました。歌人としても優れ、本書に収められた和歌の大半が『後拾遺集』や『金葉集』などの勅撰集に入集しています。今回展示される国宝は、頼宗の自筆本ではなく十二世紀後半に書写されたものですが、王朝の美意識を反映して華麗な料紙を選択し、流麗な筆跡が展開しています。

そして今回は、南北朝から室町時代における伊勢神宮の神宝の姿を伝える、現存する最古の図巻である

重要文化財《神宮神宝図巻》二巻も展示します。注記や奥書から、一三四三年の遷宮の際に描かれたものを一四一〇年に写したものと判断されます。前田家に入った時期は明確ではないようですが、加賀藩五代藩主・前田綱紀は神宮神宝に深い関心を持っていたと推測されますので、綱紀の時代に入手された可能性があります。

そのほかに武家の美意識の粹として、室町時代以来装剣金工の宗家として君臨した後藤家歴代による《後藤家装剣小道具》にも注目していただきたいと思えます。展示室ではご覧になりたくいかも知れませんが、限定された形状や大きさの中に表現の可能性を追求していった後藤家歴代の創意が大きな見所といえます。

国宝《入道右大臣集》(部分)

第5展示室

画家とやきもの

10月18日(木)～11月19日(月) 会期中無休

画家にとってやきものは、制作意欲を刺激する素材です。陶芸作家の作品と比べて、一風変わったタッチの絵付けは、画家ならではのといえるでしょう。今回の展示では、九谷で色絵付けを学んだ洋画家・中村研一の陶芸作品十二点に加え、碓伊之助や吉田富士夫、そして中川一政らが手がけた陶芸作品をご覧いただけます。

また、中村の甥である染色作家・堀友三郎の作品三点を展示します。堀は伯父である中村に「工芸家は絵が描けないといかん」ものを良く見、自分の主張を作品に打ち出さなきゃいかん」と言われたことを回想しています。媒体は違えど、自己の表現を追求した作家たちの姿勢を、感じていただきたいと思っています。



中村研一《自画像皿》

第3・4・6展示室

秋の優品選【絵画・彫刻】

10月18日(木)～11月19日(月) 会期中無休

日本画は、異国情緒ただよう作品を紹介し、墨や岩絵具、そして絹や紙などは、東洋的なモチーフによく馴染む素材です。その素材で最も早い時期に西洋的なモチーフに挑んだのが近代京都画壇の巨匠、竹内栖鳳でした。墨画のライオンやイタリア風景は、現代日本画に慣れた私たちでさえ軽いショックを受けるわけですから、当時の人たちはいかに驚きだったのでしょうか。本展示では当館コレクションの現代日本画で異国情緒をお楽しみください。

第5展示室の「画家とやきもの」に関連した展示を紹介します。油彩画では、陶芸を手がけた中村研一の《家居》、碓伊之助の《素晴らしい眺め》、吉田富士夫《交霊術・HARP》の他、高光一也《カサブラン

カ》、藤森兼明の《アドレーション・ミトロポリス》等の優品を展示します。また、版画では碓伊之助《陶工》、《台所》、素描の吉田富士夫《野の道化》などを出品します。ひとりの作家で、やきもの、油彩、版画など異なる素材を楽しむことができる機会です。

彫刻部門では、今年没後二十年を迎える坂垣道（一九〇一―一九九八）の作品を中心に紹介します。坂垣道は珠洲郡内浦町恋路に生まれ、十歳の頃、北海道に移住します。一九四四年に東京美術学校を卒業後、日展や日彫展で活躍しました。世相を反映した人物像や《御陣乗太鼓》《かえり舟》などの故郷石川への思いを感じさせる作品を残しています。



坂垣道《かえり舟》

第7展示室 第71回 示現会展巡回金沢展

11月7日(水)～11日(日) 会期中無休

一般社団法人示現会は、本年四月、東京都港区六本木の国立新美術館にて第七十一回示現会展を開催しました。巡回金沢展では、本部基本作品三十二点(受賞作品を含む)と地元石川県支部作品二十九点、合計六十一点を展示いたします。

示現会は堅実中正、清新な具象絵画を目指して、昭和二十二年石川寅二を中心に創立以来、(故)大内田茂士、(故)榎原健三の両芸術院会員を輩出しています。

一般社団法人示現会石川県支部は、平成二十一年に設立され、多くの方々のご理解と支援のもとに、翌二十二年より巡回金沢展を開催しています。

◆入場料／一般：五〇〇円(十名以上の団体四〇〇円)

六十五歳以上：四〇〇円、大高生：三〇〇円
※障害者手帳をお持ちの方(付添者含む)、中学生以下：無料

◆連絡先／一般社団法人示現会石川県支部

事務局 南外志雄

電話：〇九〇一六八一〇一〇四三六

第7・8・9展示室 第28回 北國水墨画展

10月19日(金)～22日(月) 会期中無休

石川県内の水墨画愛好家団体を網羅した統一展です。近年愛好者の増加と作品の向上が著しい県水墨画界の結束を図るとともに、愛好者拡大を目指すねらいの展覧会で、作品は広く愛好者から公募して審査します。入選、入賞作に委嘱作品も併せて展示し、水墨画の魅力伝えるものです。

◆入場料／一般・大高生：五〇〇円(四〇〇円)

() 内は前売料金 中学生以下無料

◆連絡先／金沢市南町二番一号

石川県水墨画連盟

(北國新聞社事業局内)

電話：〇七六一二六〇一三五八一

一般社団法人二科会写真部石川支部主催の支部員展は、今年二〇一八年度は会員会友展を併用して開催します。今年の、二〇一八・第六十六回二科会写真展(本展)では、十六名の入選者と内一名の入賞者を数えましたが、この入選支部員の最近作品も楽しみます。(入選作品は今回同時展示致します)

又、会員会友展(七名)によるブースでは、修煉された創造的写真表現で、二科会写真部展全国前線に到達した作品を多数展示しました。

石川の写真文化もデジタルカメラ時代となり誰もが手軽に楽しめます。だからこそフィルム時代に劣らない芸術作品として写真作品の追及を日々続けています。

皆様の、沢山のご高覧をいただき、ご指導ご鞭撻を賜りますようご案内申し上げます。

◆入場無料

◆連絡先／一般社団法人二科会写真部石川支部事務局

東京写真研究会が主催する研展は、関東・中部・関西・北陸の四支部で構成され、公募展は四支部巡回で開催されています。会員部門と公募部門に分けられていて、今回は二七四点の作品が展示されます。

北陸支部においての入賞者は、会員部門が三名、公募部門は四名となりました。

合評会は十一月十八日(日)午後二時より行います。

◆入場無料

◆連絡先／土田貴夫 金沢市東山二二一八

電話：〇七六一二五一〇七二三

第7・8展示室 第103回 公募写真展研展

11月14日(水)～18日(日) 会期中無休

第7展示室 2018年 二科会写真部石川支部展 & 会員会友展

11月7日(水)～11日(日) 会期中無休

第7展示室

第42回 公募日創展&新院展選抜金沢展

11月23日(金・祝)～25日(日) 会期中無休

- ◆ 丹羽俊夫会長が石川県を基盤として創立し、今年四十二回展を迎えます。
- 理事長三宅厚史、副理事長今村文男をはじめ、県内外からの出品を中心に日本画一〇〇点余を展覧。また、国際公募 新院展に出品された秀作も多数展示致します。
- ◆ 主な出品者
松尾功一朗・伊藤夏子・中村勝代・大窪昭子・牛丸美代子・北川真理子・北出朝之・保科誠・柴田輝枝・村中博文・南好乃
- ◆ 入場無料
- ◆ 連絡先／丹羽俊夫 金沢市窪一―二二三

第9展示室

2018 一陽会石川支部展

11月14日(水)～18日(日) 会期中無休

- 今秋、東京六本木の国立新美術館で開催されました第六十四回一陽展(十月三日～十月十五日)に出品した、一陽会石川支部メンバーの絵画三十点、彫刻二点の作品を展示します。
- 一陽会は「清新にして深奥なるものの創造に勉励し、新時代の美術を推薦せんとする。尖锐なる未完成こそ推薦し、前人未踏の新分野の確立に努力するものである」。この精神をふまえ、日々研鑽努力してきた渾身作を展示いたします。美術愛好家の方々にご覧いただいで、ご教示いただければ幸いに存じます。
- ◆ 入場無料
- ◆ 連絡先／一陽会石川支部副支部長 竹田明男
電話：〇七六一二四八―五八九八

- 志賀町を描く美術展は、志賀町の四季を通じて彩りを添える風景・豊かな自然の恩恵を受けて育まれてきた伝統文化や慣習などをキャンバスに描いていただくことにより、志賀町をより多くの皆様にPRする目的で開催しております。例年、招待作品から一般作品まで約一七〇点の洋画・日本画・水墨画・水彩画などの作品を富来展と金沢展の二会場で展示しております。
- ◆ 入場無料
- ◆ 連絡先／志賀町富来活性化センター
羽咋郡志賀町富来領家町甲―一〇
電話：〇七六七―三二―二九七〇

- 石川独立は、昭和五十四年に県内在住の独立展出品者を中心にDO展として発足しました。日本的フォービズム(野獣派)の流れを汲む独立展は、東京・国立新美術館で毎年開催されており、今年で八十六回を数えます。自由で個性強烈な作家を輩出している事で注目を集めています。
- 二十四日には批評会も行い、作家それぞれの作品に対する思いが理解できる機会ともなっていますので、是非ご参加ください。また今回は長年独立展の発展にご尽力され、一昨年逝去された前田さなみ氏の代表作を県立美術館よりお借りし特別展示も行います。
- ◆ 出品予定作家
大部雅子・京岡英樹・桑野幾子・櫻井杏純・進地美穂
田井淳・西又浩二・堀一浩・堀田正人・三浦賢治
伊藤裕貴・乙部久子・桜井節子・前田さなみ
- ◆ 入場無料
- ◆ 連絡先／堀一浩 電話：〇九〇―四三二六―五八四九

第7・8・9展示室

第30回 志賀町を描く美術展金沢展

11月28日(水)～12月2日(日) 会期中無休

第8・9展示室

第28回 独立DO展

11月22日(木)～25日(日) 会期中無休

秋のおすすめ展覧会

芸術の秋、全国各地でさまざまな魅力ある展覧会が開催されます。普段はなかなか訪れる機会のない場所へも、足を伸ばしてみませんか。

【東京】

「新・桃山の茶陶」

会期：十月二十日(土)～十二月十六日(日)

根津美術館(電話：〇三―三四〇〇―二五三六)

【関西】

「京のかたな 匠のわざと雅のこころ」

会期：九月二十九日(土)～十一月二十五日(日)

京都国立博物館(電話：〇七五―五二五―二四七三)

「谷崎潤一郎文学の着物を見る」

会期：九月十五日(土)～十二月二日(日)

アサヒビル大山崎山荘美術館(電話：〇七五―九五七―三二二三)

「西行 紀州に生まれ、紀州をめぐる」

会期：十月十三日(土)～十一月二十五日(日)

和歌山県立博物館(電話：〇七三―四三六―八六七〇)

【九州】

「オークラコレクション 古今の美を収集した、大倉父子の夢」

会期：十月二日(火)～十二月九日(日)

九州国立博物館(電話：〇五〇―五五四―二八六〇〇)

「魔都の鼓動 上海現代アートシーンのダイナミズム」

会期：九月二十二日(土)～十一月二十五日(日)

熊本市現代美術館(電話：〇九六―二七八―七五〇〇)

十一月の行事予定

◆「画家とやきもの」鑑賞体験講座 ―やきものの絵付けにチャレンジ―
コレクション展示「画家とやきもの」を学芸員の解説を聞きながら鑑賞後、九谷焼の絵付けを体験します。

日時：十一月十一日(日)

午前の部 一般(中学生以上) 午前十時～十二時

午後の部 キッズ(小学生親子) 午後一時三十分～三時三十分

会場：二階コレクション展示室・講義室

申込：十月三十一日(水)必着。往復はがきに住所・氏名・学年(キッズ)・

連絡先を記入してお申し込みください。応募多数の場合は抽選となります。

参加費：午前の部(一般)ひとり一七〇円

午後の部(キッズ)ひとり六四〇円

※午前と午後では、絵付け皿の大きさと絵の具の種類が違います。

◆ミュージアムコンサート「弦楽の響き」

演奏：根来かなう氏(ヴァイオリン)、高田愛子氏(ヴァイオリン・ヴィオラ)

日時：十一月一日(木)十六時～

会場：石川県立美術館広別館

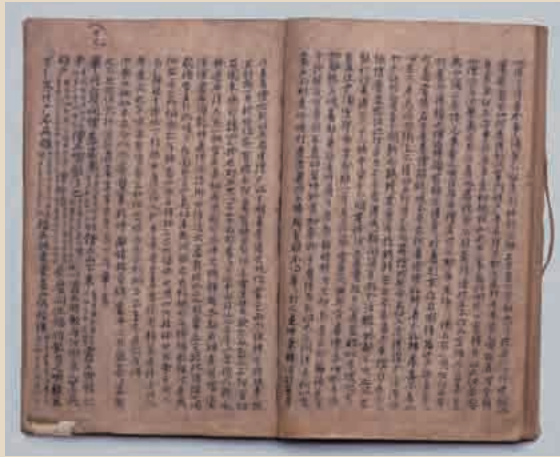
申込不要、入場無料です。

11月の行事予定

■土曜講座		午後1時30分～	美術館講義室	聴講無料
10日(土)	画家とホビー			学芸専門員 前多武志
17日(土)	よみがえった文化財			修復工房次長 高嶋清栄
24日(土)	表具基礎知識―使われ方と展開―			学芸員 有賀茜

重要文化財《**仏果碧巖破関撃節(一夜碧巖集)**》ぶっかへきがんはかんきやくせつ(いちやへきがんしゅう)
縦23.0cm 横15.7cm 鎌倉13世紀

希玄道元 きげん・どうげん
大乘寺蔵



大乘寺は、徹通義介を開祖とする曹洞宗の寺院です。曹洞宗を開いた道元から数えて三代、越前永平寺から招かれて現在の野々市に禅宗の寺としたのが始まりです。永平寺以外の地に播かれた最初の寺院であることから、曹洞宗第二の本山ともされています。寺には重要文化財五点をはじめ貴重な文化財が数多く伝わっており、昭和三十九年三月、当館に寄託され今日に至っています。

「仏果碧巖破関撃節」は宋に渡っていた道元が書写したものと伝わる、禅の奥義を指南する語録集です。語録集そのものは「碧巖録」の名で一般に流布しており、禅宗第一の典籍とされています。碧巖録は先人の残した百の公案(禅問答)を選んで漢詩を添え、解釈、批評を加えたものです。

本書は上冊五十九枚、下冊四十二枚からなり、表紙には「一夜碧巖集」とあります。これは筆者の道元が宝慶三年(一二二七)冬、中国から帰国直前に、師である天童如浄から書き写すよう命じられ、一夜のうちに仕上げたという話から名付けられたものです。下冊八十一則(写真の後半部分)より後は、夜明け直前に白山権現が現われて助筆し、書写を完了したとの伝説もあり、曹洞宗における最も貴重な宝典とされています。

当初は永平寺に伝えられたものですが、徹通禅師とともに大乘寺にもたらされました。

次回の展覧会

平成30年11月23日(金・祝)
～12月24日(月・休)

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室	
絵画と調度		よみがえった文化財	
第3展示室	第5展示室	第6展示室	1F企画展示室
優品選【絵画・彫刻】	東京国立近代美術館 名品展	石川の工芸教育	石川近代美術の100年 平成30年1月4日(金) ～2月4日(月)

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 360円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
毎月第1月曜日はコレクション
展示室無料の日(11月は5日)

11月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

11月の休館日は
20日(火)・21日(水)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか?

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上

県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎ **092-716-1401**

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索

石川県立美術館だより
第421号(毎月発行)
2018年11月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel: 076(231)7580
Fax: 076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>